

海田町教育委員会告辞

中学校の全教育課程を修了し、卒業証書を受け取られた卒業生の皆さん、誠におめでとうございます。

また、保護者の皆様におかれましては、お子様の義務教育九年間の終了という節目を感慨深く迎えられ、慶びもひとしおかと存じます。

皆さんは、小学校に入学してからの9年間を通して、日々の学習の中で、生涯にわたる学びの基礎となる学力とともに、豊かな心と健やかな体を育んできました。特に、中学校では、部活動や生徒会活動、学校行事などを通して、集団の中での役割を自覚して責任を果たすことの大切さや、人と関わり合う中で絆を深めることの喜びを味わってきたことでしょう。

本年度、新型コロナウイルス感染症が、経済や社会に大きな影響を与えました。その克服は未だ途上にあり、収束に向けた様々な努力が日々続いています。学校も例外ではなく、新しい日常を余儀なく突きつけられました。

しかし、このような状況の中でも、卒業生の皆さんが中心となり学校行事や部活動、日常の在り方など様々な場面において、今できることを考え、しっかりと課題に向き合いました。最高学年としての自覚と主体的に行動する姿は、後輩たちに今後の大きな道標を示してくれました。

今年2月、水泳のジャパンオープンで、池江璃花子選手が白血病を乗り越え、好成績をあげました。皆さんも御存じの通り、池江選手はリオデジャネイロ五輪に出場し、東京五輪でも更なる活躍を期待されていた中、白血病と診断されました。当時、池江選手は、次のように述べています。

「神様は越えられない試練は与えない。自分に乗り越えられない壁はないと思っています。」おそらく、自らに言い聞かせるように告げた言葉でしょう。しかし、池江選手は、自身の言葉どおり、つらい闘病生活と向き合い、白血病という大きな壁を乗り越えました。そして、今まさに、次なる目標へと進もうとしています。

コロナ禍と向き合ったこの1年、義務教育9年間、楽しかった思い出と同じくらい多くの壁に遭遇し、その度に乗り越えてきたのではないのでしょうか。一人ひとり、壁の大きさや乗り越える方法は違ったかもしれませんが、それぞれの壁と向き合い、克服する努力をしてきたことでしょう。こうした経験から得た一つ一つの学びが、皆さんの人生において、夢を志に変え、志を実現するための大きな力となってくれると信じています。

最後になりましたが、埜越校長先生の卓越したリーダーシップ、質の高い授業や部活動の指導をしてくださった諸先生方に心から感謝申し上げますとともに、海田西中学校の教育に御尽力いただいた全ての皆様の今後の御健勝と御活躍を祈念し、教育委員会告辞といたします。

令和3年3月13日

海田町教育委員会